



体の中を映像化して病気を診断、 画像を見ながら低侵襲治療

現代の医療は、高度の画像診断抜きには成り立たない。当科は中央部門である放射線部と一体になり、診療各科のニーズに応えるため、CT、MRI、PET、RI、消化管透視、血管造影、IVR等、極めて広範な領域の画像診断を担当し、さらにはイメージガイド下の低侵襲治療に携わっている。特に現代の画像診断の中心となるCT、MRI、PET等の断層画像診断では、最新のマルチスライスCT、3-Tesla MRI装置、複合型PET/CT装置等を導入し、全国の国立大学法人附属病院の中でトップクラスの件数を施行している。

代表的診療対象疾患

検査科である性格上、すべての疾患が対象となり得る。

診療体制と治療実績

主たる業務

①マルチスライスCTによる画像診断

5台のマルチスライスCTが稼働し、当日依頼CT検査を含め、外来件数を大幅に増やし、診療のサービス向上と効率化に寄与している。CT検査件数は毎年増加しており、2012年度実施CT件数は38,170件、156件/日を達成、全国の国立大学法人附属病院のトップスリーに入っている。

②MRIによる画像診断

最新の3-T、MRI装置3台と1.5-T装置1台の計4台体制で稼働している。3-T、MRIの導入後、より精密な画像が得られるようになった。2012年度のMRI総検査件数は、13,533件、55.5件/日を達成。

③核医学検査

核医学装置は、複合型PET/CT装置1台、SPECT装置3台(うちSPECT/CT装置1台)体制で稼働している。撮像時間の短縮、画質の

向上が得られるようになり、2012年度核医学検査総件数は6,076件、25.3件/日を達成。

④血管造影・IVR業務

最新のIVR-CT、血管造影機器を用いて、経動脈性塞栓術、胆道系IVR、腫瘍焼灼術、肝移植後の合併症に対するIVRなど、京大病院の難易度の高い症例に対して質の高い低侵襲治療を施行している。



高度先進医療の取り組み

当科主導研究のほか他診療科の研究も支援

東芝メディカルシステムズとの共同研究で設置された研究専用MRI装置は、当科主体の研究をはじめ、保険診療外疾患を対象とした診療各科のMRI研究支援を行っている。また、島津製作所との共同研究による乳房検査専用PET装置でも、臨床研究を進め、成果を上げている。さらに

従来から実施している「メチオニン・ソマトスタチンアナログ製剤を用いたPET/CT検査」、「Cine MRI」、「CT被ばく低減」など、当科主導研究に加え、他診療科依頼の臨床研究・治験などの支援を実施している。